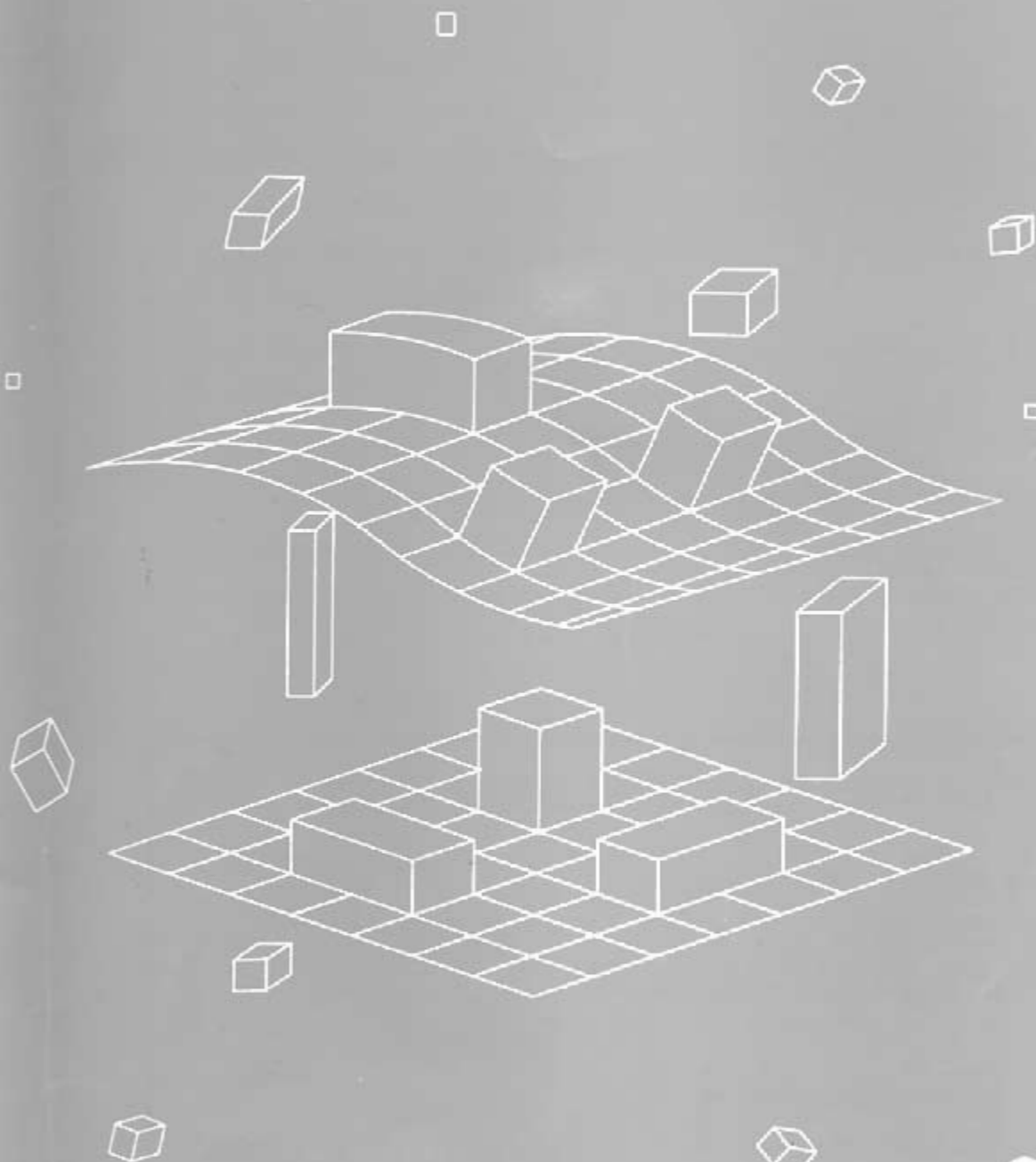


ITSUMIKAI



NO. 27
平成12年度版

目 次

会長あいさつ	3
五三会の皆様へ	4
今、「五三会」は何をしているのか？ — 創立30周年を迎えて —	6
五三会栄誉賞・五三会学生大賞	11
第26回五三会建築設計競技結果報告	12
紀行文……平安の都「厳島神社」を訪ねて	22
1999年度卒業生就職等一覧	28
広島工業大学建築・環境系教職員名簿	30
五三会活動報告	32
五三会収支決算報告	33
五三会会則	34
編集後記	36

ごあいさつ

会長あいさつ

ミレニアムを経て21世紀へと時代の節目を迎え新しい期待と夢にむけ会員の皆様におかれましては懸命にがんばられていることとご推察致します。

一方、社会の構造的変革が予想もつかない早さで進み我々の意識変革も余儀無くせまられつつある状況下でいい意味も悪い意味も含めまさに大変な時代を経験させられる今日このごろでございます。

社会構造の変化と五三会がダイレクトに結び付けて考えることではないように思いますが変わりつつある状況下で目標設定、方法論等、活動の具体性のなかでの検討が今後の五三会の発展のために必要になってきているかと思えます。母校の大学はもとより社会との相互リンクまた卒業生をつなぐネットワークまた学生と卒業生をつなぐネットワークにおいて五三会だからこそできる活動に積極的にとりくめればと思っております。またこういった時代だからこそ、その連携において意味をもつ会とご理解頂き会員の皆様にとって効力を発揮できる会としてご指導、ご意見よろしくお願い致します。

また、活動を支えるのはより多くの会員の会への積極的な参加と思っておりますので、以下活動を身近なものとしていただくよう、あえてここで私の活動雑感を報告させていただきます。

まずは年度の始まりの五三会総会ですが懇親会では大学全体の総会と御一緒させていただいたことで日頃お会いできない会員の皆様と御一緒させていただきいろいろお話ができて楽しい一時をすごさせていただきました。

2番目に新入会員の歓迎会で少し人数が少なく寂しい思いもしましたが元気ある新入会員のみなさんとお会いできました。これからの五三会を支えていただく主要な会員のみなさんで元気づけられました。

3番目はゴルフコンペですが最近若返り過ぎてると思われる幹事会とは違って大先輩の方々の参加で盛り上がる予定でございましたけれども途中大雨で中止となり大変残念でし



五三会会長
山野正晴 (S54年卒)

た。でもミーティングの時間が十分にとれ話もはずみました。

それから4番目は忘年会ですが学生さんの参加もあり諸先輩の体験談も飛び出し意味のある貴重な時間であった様に思います。

5番目、五三会競技設計ですが36作品もの学生さんからの出品があり大盛況でした。また作品数の多さにとどまることなく内容におきましても納得のいける作品が多かったかと思えます。

6番目五三会会報誌の編集も編集委員の努力と関係者の皆様の御協力のもと楽しみなものと出来上がりつつあります。しかしながら広告掲載依頼は悪戦苦闘、社会状況が厳しすぎる様です。同窓の皆様の応援に来年度は期待します。

7番目に五三会顕彰委員による五三会学生大賞の選定で今年度の活動は大体終わりです。私の雑感だけでは活動の全容は分かりにくいと思いますが不足部分は会報誌のなかの各事業委員会の報告等で補完していただき最近の会の活動の雰囲気や少しでも感じていただき御理解いただければ幸いです。声を掛け合い参加して下さい。

世代や枠組みを超えた、生き生きとした交誼の場としてまたお互いの研鑽の場として建築・環境系学科の発展への貢献のために会が発展していきますようこれからも各事業委員会の充実と五三会だからこそできる活動に挑戦していきましょう。

会員の皆様また関係者の皆様のご理解、ご協力、ご支援のほどよろしくお願い致します。

最後に今年度五三会の事業ならびに活動に対し多大なる御協力をいただきました皆様に心から感謝すると同時に皆様方のますますの御発展を心よりお祈り申し上げます。

五三会の皆様へ



環境デザイン学科
教授 篠原 道正

建築学科最後の学生2名が、平成11年3月に卒業して、はや1年が経とうとしております。そして、同年4月からは環境学部に環境情報学科が新設スタートいたしました。環境学部は環境デザイン学科を含めて2学科体制となりました。

一方、工学部の方はすでに改組転換の済んでいる建設工学科を除くすべての学科が改組転換を行い、平成12年4月からは面目を一新して広島工業大学はスタートいたします。改組転換によって環境デザイン学科が平成5年4月にスタートしてから、7年足らずの間に全ての学科が改組転換したのみならず、大学院博士後期課程知的機能科学の設置、大学院修士課程環境学研究科地域環境科学専攻の設置、更には二つのハイテクリサーチセンターと二つの学術フロンティア推進拠点の設置と大変めぐるしい変化が起こって参りました。

今になってみれば、建築学科の改組転換はこの大きなうねりの序曲にしか過ぎなかったとうなずけます。今後さらに変革の行われる確かな予感があります。

どんな力が大学をこのように突き動かしているのかを考えてみますと、大きなものとしては一つには少子化の問題、二つ目には我が国の世界におけるリーダーシップの問題、三つ目には地球環境問題であろうと思われま

す。第一の少子化の問題は、広島工業大学においては、前述した学科の改組転換及び大学院の設置といった形で現れたと理解できると思えます。即ち、受験生から見ていかに魅力のある大学にするかという命題に沿って、努力が行われているわけです。

第二の我が国の世界におけるリーダーシップの問題は私立大学においてはハイテクリサーチセンター構想とフロンティア推進拠点構想として現れて参りました。

これは、我が国の科学技術は高度に発達して、今や世界のトップクラスにあるとの認識のもとに平成8年に科学技術基本法が制定され、成果を世界に発信すべく巨額の研究資金が投入されるようになったことの一つの現れ

と考えることができます。考えてみれば、かつては研究者の発想は世界のトップレベルには及ばなかったものが、今では我が国の社会的充実の上に立って、多くの研究テーマが先進的なものとなってきていることの証と言えるでしょう。

第三の地球環境問題は単に大学のみならず、世界中をある方向に向けさせる大きな力として作用しているように思われます。我々のまわりに起こっている、ISO9000あるいは14000もその現れであり、建築基準法の改定もその現れであると理解することができます。現在、顕在化しつつある問題としては1995年に発足したWTO（世界貿易機関）の問題があります。

これは、世界貿易機関を設立するマケランシェ協定の付属書B（サービスの貿易に関する一般協定）を受けた動きです。

これに関する大学を取り巻く具体的な動きとしては、工学教育から技術者教育への認識の変革と技術者教育プログラムの基準化の検討が始まっていることがあります。この中には一級建築士資格も当然含まれて参ります。今後の展開から目が離せません。

最後になりましたが、今春社会へ巣立ち、五三会の会員となられた皆様、卒業おめでとうございます。また、五三会の皆様のご活躍、心から敬意を表します。

しかしながら、景気の低迷のみならず、今、社会では前述のような大きなうねりが起こっております。このような動きは「特続可能な発展」のための努力であると認識して、飲み込まれて流れを見失うのではなく、冷静に対応できるよう、お互い励まし合ってゆきましょう。

五三会会員の皆様へ

五三会は広島工大工学部建築学科の卒業生同窓生を源に、34年の歴史を重ねてきましたが、1996年からは建築学科の改組転換により、環境学部環境デザイン学科卒業生と工学部土木工学科建築工学コース卒業生とを招き入れ、広島工大で建築系学問を学んだ人の同窓会となっています。また、来年は工学部建設工学科建築工学コースの学生が卒業していきます。実際には、工学部土木工学科にも広土会という同窓会があり、学生時代はほとんど広土会の中で活動しています。にもかかわらず、建築工学コースの卒業生は全員広土会の会員でありながら、同時に約半数が五三会にも入会している状況にあります。これは、五三会が「広島工大建築系同窓会」であることの意味が非常に大きいはずです。

だからこそ、大学の改組転換に伴って分離し、異なる教育方針を持つ2つの学科の卒業生が、キーワード「建築」をよりどころにして、なお一つの建築系同窓会として存続する、またはさせる事の意義について真剣に考える時期だと思えます。

同窓会といえば、歳をとってからその気楽さと楽しさから関心が強くなるもので、昔も今も変わらないものですが、五三会の問題は、一般の同窓会と異なり、気楽さ、楽しさ、懐かしさだけではない会にしなければならないことにあると思えます。

建築系の多くの卒業生の実績の中から、少しでも共通の関心のある部分を見つけだし、それを横系に歴史の縦系の中でコミュニケーションの輪が文化的交流といえる領域にまで広げていく必要があります。例えば、卒業生の建築における活動と人間情報を結びつける役割を果たす等の、同窓のヒューマンリレーションズの企画などです。

建築界の今日的課題として、21世紀に向けた高度ハイテク建築技術の開発、兵庫県南部地震以来の災害対策と不適格建築の対策、建築基準法の性能規定化に伴う産官学の対応、低成長高齢化社会における建築のあり方等々枚挙にいとまがないが、さらに、中低層RC



建設工学科
教授 佐藤立美

といった一般庶民に密接な建築物にも十分目の行き届いたための細かい安全対策と施工管理に対する地道な努力はさらに大切な問題です。

幸いにも、五三会の中には、これらの問題にそれぞれの立場で非常に重要な活躍をされている多くの同窓生がおられることを知っています。各種の受賞を受けた高名な建築デザイナー、学会や各種団体での公的委員会活動に参画され、さらにその成果を公表されている方、構造設計での新しい技術の提案者、免震建築物の設計および施工者、既存建物の耐震診断に指導的役割をされている行政の方、等々、比較的歴史の浅い地方私立大学の卒業生たちがこれだけの活躍をしている大学はほとんどありません。五三会のもつ蓄積能力は他大学の追従を許さぬものになっています。

これらは全て、第一期の50才から今年卒業する22才までの全てに幅広い層に共通する関心事であると思えますし、これらの技術や考え方の一端を知りうる場として五三会が存在すると良いと思えます。またそのことは、若い卒業生や学生に大いなる刺激とモチベーションを与えてくれるものと信じています。

話は変わりますが、建築業界の昨今の低迷ぶりは想像以上です。これは、バブル時代に既存建物の1/30の棟数の建物を毎年建設していたことも事実で、これでは早晩建設需要はなくなるのは当然ですが、この間それぞれが自己の意志を明確に持たず、同じ方向を向いてしまったことが最も大きな原因だと思えます。数十年後には、建物寿命の問題で多大な補修改築需要になってくるでしょうが、つけは大きいと思っています。

卒業生の方で若い人材を求められている方は、是非後輩の面倒を見てやってください。

厳しいが故にお互い今後とも努力が必要なようです。でも、楽しく頑張って行きましょう。ともかく、建築関係者に今求められていることは正しい知識と適切な判断力です。

広島工大の建築系卒業生が、さらに社会で信用され活躍されることを祈念しています。

今、「五三会」は何をしているのか？

— 創立30周年を迎えて —

副幹事長 平田 欽也 (S60年卒)

2000年のスタートは、思ったよりあっけない幕開けとなりました。しかし、相変わらず厳しい社会状況が続くなか、建築や環境をキーワードとする私共を取り巻く状況は予想もつかないスピードで変化し、以前の価値観では計ることの出来ない時代に突入した気がしております。「五三会」会員の皆様におかれましてはこの激動の期をうまく活かされ、益々活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、この記念すべき2000年を迎えた平成11年度は、私共にとってもう一つの大きな節目を迎えることとなりました。それは、広島工業大学に建築学科が創立して35周年にあたり、「五三会」（建築・環境系同窓会）も創立30周年を迎えたことです。諸先輩方から受け継がれてきた「五三会」は、30年を超える世代を繋ぐ同窓会として成長し、年齢的な巾がでてまいりました。また、正会員も昨年度で約1300名（準会員を含めると約6000名）を数えるまでに発展しましたことをご報告いたします。

さて、私は、微力ながら平成10年度より副幹事長を務めさせて頂いております。今日は、昨年度の活動を中心に「今、五三会は何をしているのか？」をお伝えいたします。

「五三会」って何？

私ごとで恐縮ですが、大学を卒業後東京で就職いたしまして十数年間活動しておりましたが、2年程前に郷里の広島に帰ってまいりました。これがきっかけで、「五三会」のお手伝いをする事になったわけですが、会の活動にお誘いを頂いた時、「五三会」と全体の同窓会との違いがはっきり解っていませんでした。それまで、私の中では「五三会」は全体同窓会の中の建築学科（卒業当時）部門と思込んでおりました。さらに勘違いは続き、卒業すれば自動的に「五三会」に入会され、会報誌が送られてくるものとはばかり思っておりました。最近になってやっと理解しまして、今まで会報誌を送って頂いたのは、卒業後直ぐ東京に発った私に代わり会費を納入してくれていた、両親のおかげだったということだ

す・・・今になって感謝！

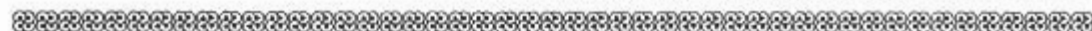
「五三会」のPRを！

私のような勘違いをしていらっしゃる方は少ないと思いますが、正しくは、本誌の終わりの方のページを開いて頂くと「五三会」会則が載っております。会則も「五三会」の30年間の歴史の中で、少しずつ改正されているということですので、これを機会に今一度ご確認頂ければ幸いです。そして、友人や職場で同窓の方がいらして、この会報誌が届いていないようでしたら、ひょっとして私のような勘違いから「五三会」そのものをご存じないことも考えられますので、ご説明頂ければ幸いです。

先日もある懇親会で大先輩にお会いし、「五三会」についてお話したところ、活動にご賛同を頂き、「知っていたらもっと早く入会したのに」と、おっしゃっていました。PR不足を痛感し、新しく卒業される方だけに入会の案内をするのではなく、御活躍されているOBの方々に、もう一度会にお誘いしてみてもどうかと準備を始めているところです。

「五三会」の活動とは？

「五三会」は同窓会といたしまして、会員相互の交誼を厚くすること、母校の建築・環境系学科の発展に貢献することも目的としております。これらを具体化するためにいくつかの事業や活動を行っておりますが、それらの方針は毎年4月に行われます「五三会」総会によって決定いたします。また、総会によって選出された役員によって年に7回程度、幹事会を開催しております。さらに、幹事会は各事業を円滑に進めるために事業委員会を編成しており、事業は各委員により遂行されております。各委員は多くの人々のボランティア活動によって支えられております。



□「五三会」総会・懇親会

平成11年4月25日

- ・前年度の活動報告や決算の報告
- ・次年度の計画案・予算案や役員改選など

□「五三会」事務局

- ・事務連絡窓口
- ・新卒業生への入会案内

□幹事会

- ・役員及び事業委員が各事業の遂行について話し合う

平成11年度は7回の幹事会を開催

場所：鶴学園広島校舎

□交流事業委員会

- ・新入会員歓迎会の開催

平成11年6月18日

場所：広島そごう屋上ビアガーデン

- ・忘年会の開催

平成11年12月1日

場所：やぐら茶屋

□ゴルフコンペ委員会

- ・「五三会」ゴルフコンペの開催

平成11年9月21日

場所：広島C.C西条コース

□設計競技事業委員会

- ・「五三会」建築設計競技の開催

公開審査会・座談会

平成11年12月18日

場所：鶴学園広島校舎

□顕彰制度認定事業委員会

- ・五三会栄誉賞の認定

五三会の社会的地位を高めることに寄与した会員に授ける賞

平成11年度は倉敷でご活躍の植村徹さん（昭和47年卒）を表彰予定です（3/18）

- ・五三会学生大賞の認定

卒業年次における環境デザイン学科・土木（建設）工科学学生のうち、その年度において卒業研究又は卒業設計が優秀と認められた者。

表彰は卒業式の後に行う予定です（3/24）

□会報誌編集事業委員会

- ・会報誌「五三会」の編集

平成12年3月

第27号（平成12年度版）の発行

□広告担当

- ・会報誌「五三会」に掲載いただく広告主との渉外窓口

□名簿管理担当

- ・「五三会」正会員名簿の更新及び管理
- ・正会員の拡充を計画

□活動企画委員会

- ・新たな活動の企画や各事業委員会との調整役

□学生部会

- ・「五三会」の学生部会。学生の活動を支援するための窓口（現在は休眠中）

□その他、母校への協力

- ・平成11年度新入生オリエンテーションセミナーで講演協力

「五三会」建築設計競技は26回を数え、活動の主軸の一つとなってまいりました。広島工業大学の学生はもとより、県内の他大学からも毎年多くの参加が見られるようになり、地域のコンペとして定着してきた感があります。「広島のふれ合いの場を考える」というメインテーマは今回から5年間継続され、角度を変えながら広島の街づくりを考えて行く予定です。スタートである今回は、公開審査というかたちをとりました。審査の後には、実際に広島の街づくりに関わっておられる方々をお招きした座談会が開催され、学生を交えて熱いメッセージが語られました。審査を担当して下さった森保洋之先生（広島工業大学環境学部教授）の講評のなかで、「たくさんの市民にこのコンペ案を見て頂く機会を設け、地域のみなさんと一緒に広島の街づくりを考えてはどうでしょうか」という提案が印象的でした。



平成8年度から始まりました、優秀な卒業研究又は卒業設計を表彰する「五三会学生大賞」は今回で4回目となりました。これからもこのような活動を通して、母校の発展に微力ながらお手伝いできればと願っております。

平成11年度は約80名の新社会人の入会を頂きました。若い会員のエネルギーと、諸先輩方々の経験をどう繋いでゆくか・・・新入会員歓迎会や忘年会またはゴルフコンペ等、会員相互の交流事業も少しずつですが、広がりあるものとなってきております。また、活動企画委員会を新たに設け、現在活動している事業以外の新しい活動企画を模索しているところです。

「五三会」の活動のもうひとつの軸に、お手元の会報誌の発行がございます。母校の建築・環境系学科の近況や、「五三会」の1年間の活動記録を、先生方や会員各位の寄稿によって編集いたしております。会員の皆さまの全員を繋ぐ唯一のメディアですので、ボランティアの編集委員の方々にはご苦勞をおかけしていますが、これからも継続して行く所存です。みなさまのご意見や近況をお寄せ頂ければ幸いです。また、このような「五三会」の活動に何かのかたちで参加・御協力頂けるようでしたら、役員または事務局までお知らせ下さい。世代を越えた生き生きとした交流にあなたも参加してみませんか。

さて、冒頭に申しましたように、建築や環境を取り巻く状況の変化は激しくなるばかり

です。これからの課題ですが、「五三会」を通じて、会員相互や母校を繋ぎ、情報や研究を交換できるような場が実現できればと思っております。どうか今後ともご支援ご協力の程よろしく願いいたします。



同窓会誌への広告掲載について

時下、皆様方におかれましては、ますます御清栄のことと存じます。
私ども同窓会には平素より、御支援、御指導を賜り、感謝申し上げます。
毎年、同窓会誌の発行におきまして広告の御依頼をさせて頂いております。
同窓会誌も、いっそうの内容の充実を謀っておりますが、昨今の景気の状態も影
響し、広告収入が減少している状況です。
何卒、皆様の広告掲載の御協力をお願い致します。

(連絡先)

〒733-0821	広島市西区庚午北1-16-30		
	(有)フォルテ建築研究所	神 垣 聡 志	
	TEL 082-507-0028	FAX 082-507-0056	
〒732-0033	広島市東区温品7-18-4		
	(有)ビルド設計	内 田 康 裕	
	TEL 082-508-4511	FAX 082-508-4503	

発表！

五三会栄誉賞・五三会学生大賞

五三会栄誉賞

楢村 徹氏 (S47卒)

平成11年度 日本建築学会賞 (業績)

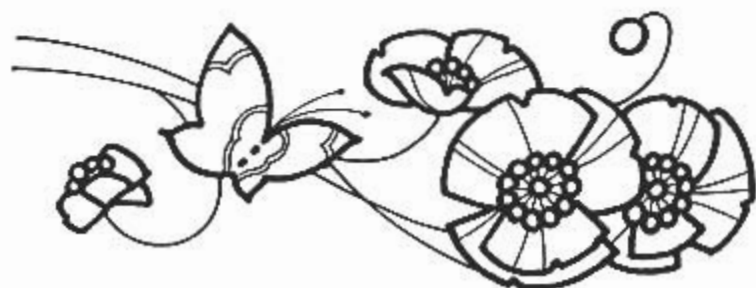
「古民家再生工房」の継続的な活動

五三会学生大賞

環境学部環境デザイン学科

高橋 将章 君

“city >>> park >>> court”



第26回五三会建築設計競技結果報告 26th ITUMIKAI COMPETITION

課題： 公・共の場 ～水（海辺・川辺）～

昨年、25回目という節目を無事終了した五三会建築設計競技は、新たな企画でスタートをきりました。その1回目にあたる第26回設計競技の結果をご報告致します。

本年度は、母校広島工業大学環境学部学部長、大学院環境学研究科長として、また広島市西風新都アーバン・デザインコミッティー副委員長など様々な場面でご活躍の森保洋之先生に審査をお願いしましたところ、ご多忙にも関わらず快くお引受け下さりました。

今年度から新たに「広島のふれあいの場を考える」をメインテーマに据え、都市の中のあらゆる場面での公共空間について考えてもらおうと、「公・共の場～水（海辺・川辺）～」と題し、水辺におけるふれあいの場を募集しました。

昨年12月11日に応募締切を迎え、広島工業大学環境学部環境デザイン学科15作品、広島工業大学工学部建設工学科8作品、広島大学4作品、近畿大学・女学院大学・福山大学大学院各2作品、呉工業高等専門学校・同専攻科・広島大学大学院各1作品の計36作品にも及ぶ力作が寄せられました。

一週間後の18日に鶴学園広島校舎において、応募された学生の方々など50名以上が見守る中、公開審査会が執り行われました。また、森保先生にあっては応募作品一つ一つに講評を与えながら、非常に丁寧な審査をして頂きました。応募総数の多さもさることながら、どの応募作品も力作揃いで甲乙つけ難く、大変悩まれた様子でした。審査結果は別記の通りとなりました。

入選の皆さん、おめでとうございます。

残念ながら誌面の都合により、ここでは入選作品の紹介のみに留まらせて頂きますが、応募された作品はどれも、一生懸命に取り組まれた様子が感じられました。また、一組で複数の提案をされる方々がいらっしゃるなど、この設計競技或いは課題に対する学生の方々の姿勢を目の当たりにし、大変嬉しく感じると共に心強く思いました。

審査会終了後は森保先生をはじめ、日頃公共の場に関する仕事をされていらっしゃる、広島市都市デザイン室室長の岩田幸二さん、同じく広島市の企画調整課地域活性化調整担当課長の山本哲生さんをお迎えし、五三会前会長でもある株式会社LAT環境設計事務所の中島伸夫さんをお交えて、現在幹事長の任を勤められ母校で非常勤講師として教鞭をとっておられる三島久範さんのコーディネートで応募された方々との座談会を行いました。

応募作品を基に公共の場の在り方について応募者である学生諸君と、現実に実務として携わっておられるコメンテーターの方々との間で、熱のこもった論議が交わされたいへん有意義なものとなりました。

この座談会も新たな企画として催したのですが、1回目にしてはなかなか盛況だったのではないかと関係者一同自負しております。

今後もしばらくは課題を「公・共の場」として、今回はそのシーンを「水」に求めましたが、「広場」や「建物の間」「道」といった別のシーンに求めながら、来るべく30回目にはそれまでの各シーンも振り返りながら総まとめができればと考えています。

そのためにも、今後ともこの設計競技がより発展していきますよう、皆様方の一層のご理解とご協力をお願い致します。

最後になりますが、森保先生にはこの建築設計競技事業にご理解を頂き、公務ご多忙の中審査、講評そして座談会にと貴重なお時間を割いて頂きましたことお礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。

以上にて、本年度建築設計競技事業の報告を終わります。

建築設計競技事業委員会



入選発表 (敬称略)

優秀賞 秦 敏彦・花篤 洋介
(広島大学大学院)

優秀賞 1 + 2 + 4
石川 誠・牛尾 雅美・木之下 裕
園部 晃平・高橋 将章・渡邊 実
池澤 美香・矢野 舞美・通谷 響子
木村 まり・横川 貴史・益永 研司
難波 聖
(広島工業大学環境学部
環境デザイン学科)

優秀賞 園部 晃平
(広島工業大学環境学部
環境デザイン学科)

佳作 園部 晃平
(広島工業大学環境学部
環境デザイン学科)

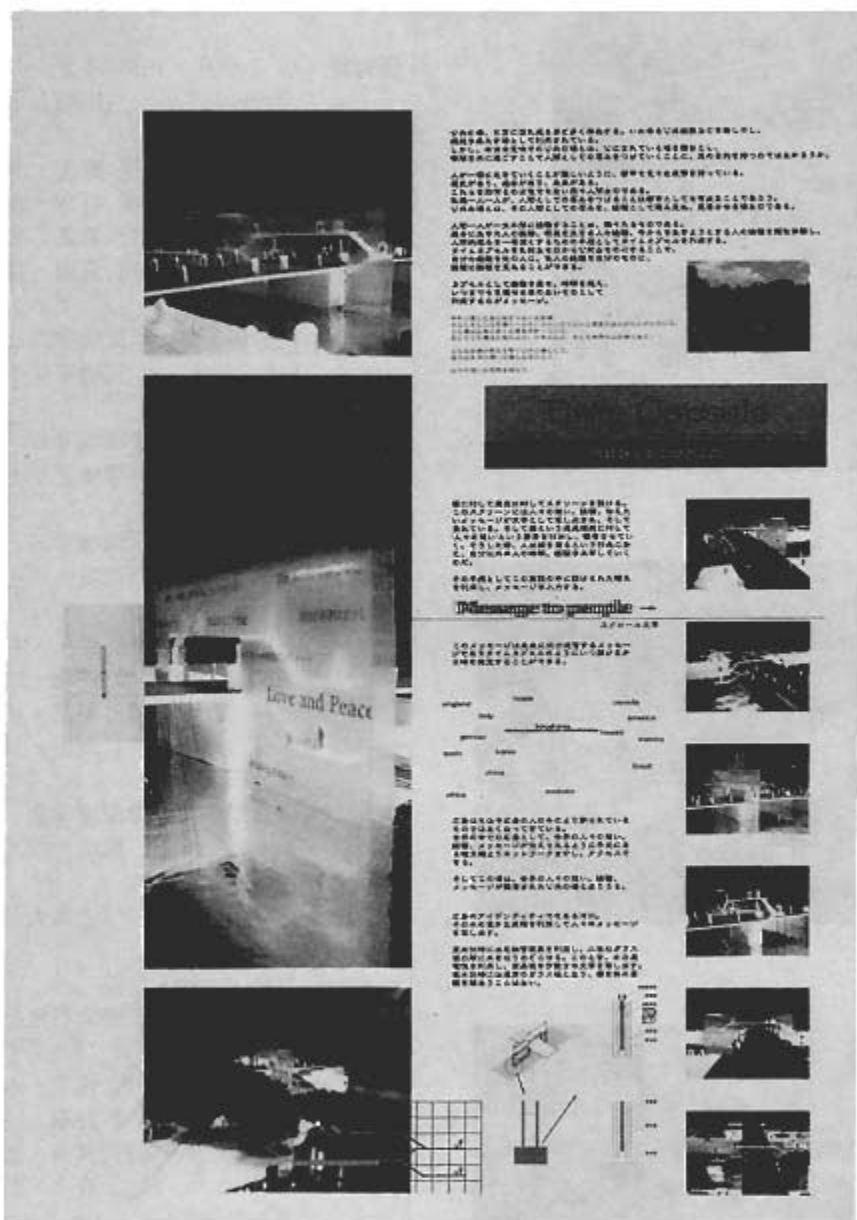
佳作 1 + 2 + 4
石川 誠・牛尾 雅美・木之下 裕
園部 晃平・高橋 将章・渡邊 実
池澤 美香・矢野 舞美・通谷 響子
木村 まり・横川 貴史・益永 研司
難波 聖
(広島工業大学環境学部
環境デザイン学科)

佳作 河島 悟志
(近畿大学工学部)

佳作 松岡 育子
(福山大学大学院
工学研究科建築学専攻)

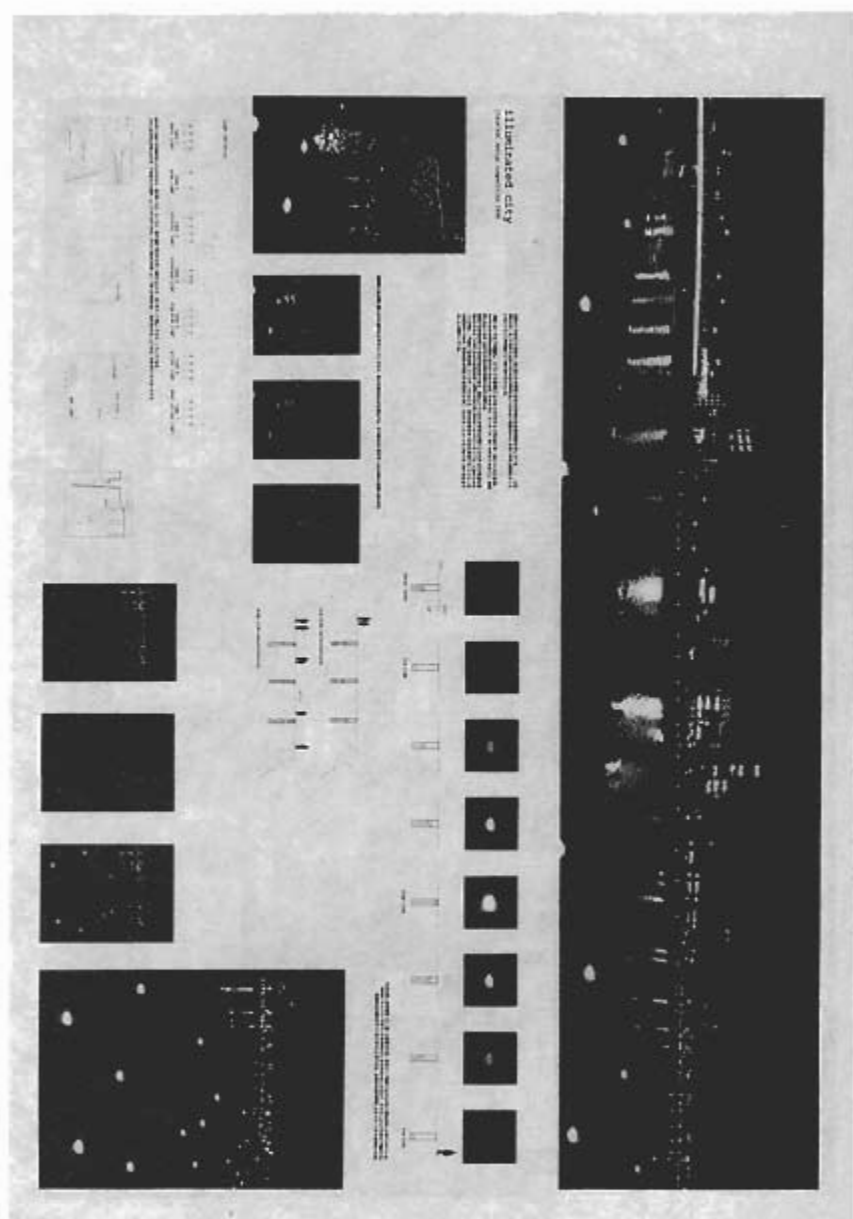
佳作 1 + 2 + 4
石川 誠・牛尾 雅美・木之下 裕
園部 晃平・高橋 将章・渡邊 実
池澤 美香・矢野 舞美・通谷 響子
木村 まり・横川 貴史・益永 研司
難波 聖
(広島工業大学環境学部
環境デザイン学科)

特別賞 奥野 洋平
(近畿大学工学部)



優秀賞

秦 敏彦・花篤 洋介 (広島大学大学院)

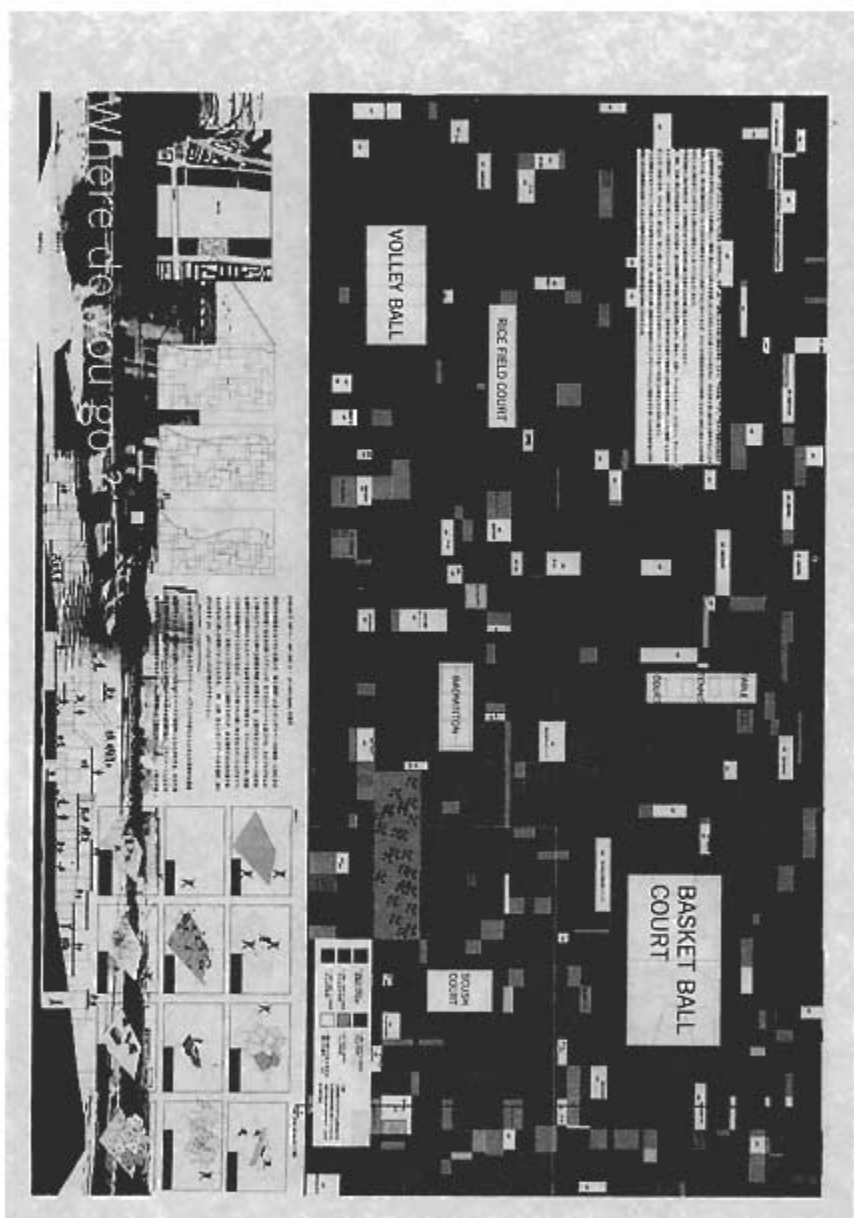


優秀賞

1 + 2 + 4

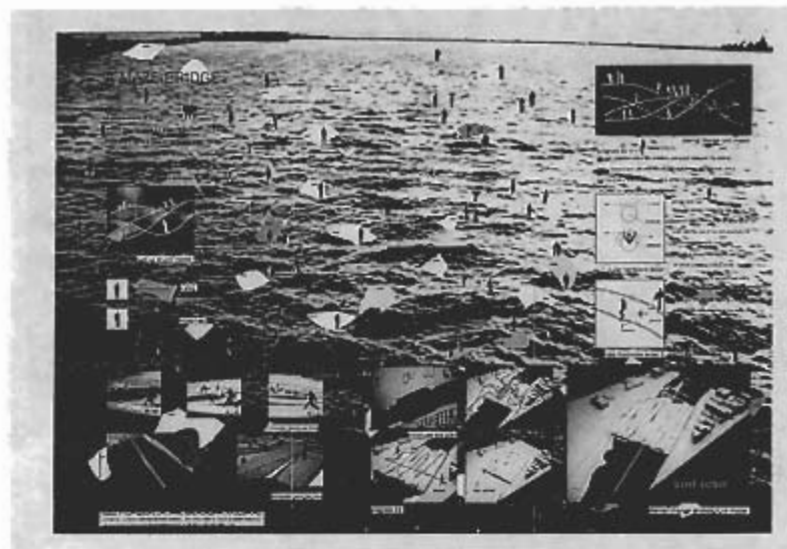
石川 誠・牛尾 雅美・木之下 裕・園部 晃平・高橋 将章・渡邊 実
 池澤 美香・矢野 舞美・通谷 馨子・木村 まり・横川 貴史・益永 研司
 難波 聖

(広島工業大学環境学部環境デザイン学科)



優秀賞

園部 晃平 (広島工業大学環境学部環境デザイン学科)



佳作

園部 晃平 (広島工業大学環境学部環境デザイン学科)

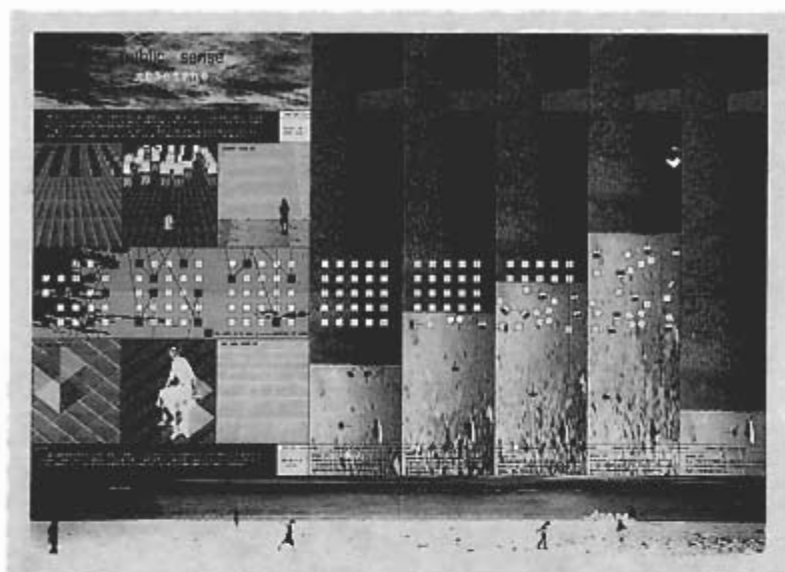


佳作

1 + 2 + 4

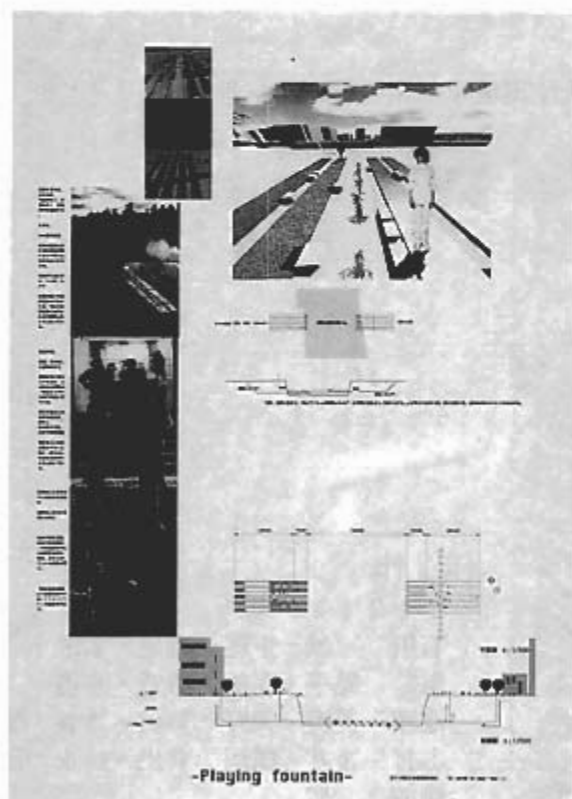
石川 誠・牛尾 雅美・木之下 裕
 園部 晃平・高橋 将章・渡邊 実
 池澤 美香・矢野 舞美・通谷 響子
 木村 まり・横川 貴史・益永 研司
 難波 聖

(広島工業大学環境学部
 環境デザイン学科)



佳作

河島 悟志 (近畿大学工学部)



佳作

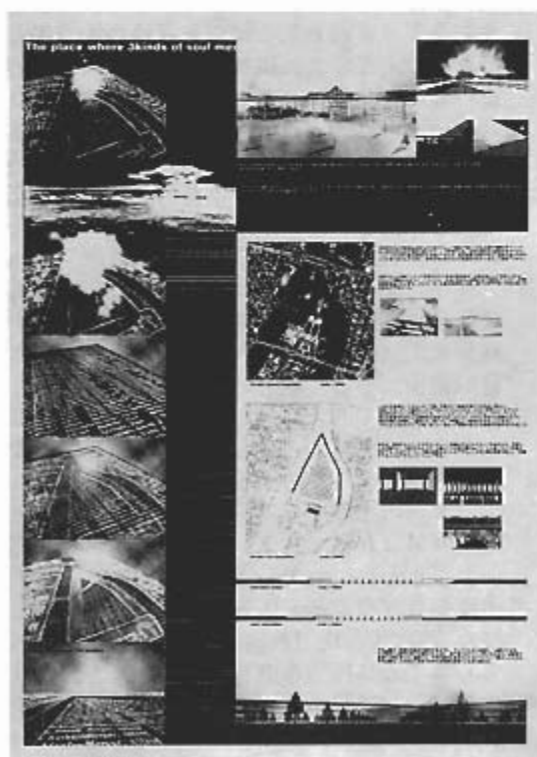
松岡 育子 (福山大学大学院工学研究科建築学専攻)



佳作

1 + 2 + 4

石川 誠・牛尾 雅美・木之下 裕・園部 晃平・高橋 将章・渡邊 実
 池澤 美香・矢野 舞美・通谷 響子・木村 まり・横川 貴史・益永 研司
 難波 聖 (広島工業大学環境学部環境デザイン学科)



特別賞

奥野 洋平 (近畿大学工学部)

審査会風景とその講評

広島工業大学環境学部環境デザイン学科 教授 森保洋之

■五三会よりの依頼により、コンペの審査員をお引き受けした。これまでのメインテーマ「国際平和文化都市広島の街づくりを考える」に対して、新しいシリーズは、「広島のふれあいの場を考える」をメインテーマとして、第26回から第30回までの5回にわたり各回にサブテーマを据えて実施するというものであり、今回の第26回は「公・共の場～水（海辺・川辺）～」をテーマ（課題）にコンペを行いたいと云うことであった。私にとっては、五三会コンペの審査員は実は2回目となる。

■この度の課題の主旨は、「公共の場」とはどうあるべきか。「公共」が「真に公共」であることの意味合いとはどういうものか。生きている都市にはそここに生活の重層性を包含してくれる潤いのある場面が必要で、広島の中にある公の場に何らかの要素を加えて、潤いのある公共空間「公共の場」を提案して欲しい。というものである。■審査方法は、一段階の公開審査であり、平成11年12月18日（土曜日）に広島工業大学広島校舎にて午後1時30分から夕刻まで行われた。当日は、まず公開審査会を行い、その後座談会を、最後に表彰式を行った。■公開審査会は、まず応募作品36点全てについての私の講評からスタートした。その上で入選作品を発表し、休憩となり、全ての作品を参加者全員で改めて見ることとなった。この時点で作品の応募者名が発表された。36点の内訳は、広島大学5点、福山大学2点、近畿大学2点、広島工業大学23点、広島女学院大学2点、呉工業高等専門学校2点であった。入選作については、最優秀賞：該当なし。優秀賞：秦敏彦氏（広島大学大学院）他1名。優秀賞：石川誠氏（広島工業大学環境デザイン学科）他12名。優秀賞：園部晃平氏（広島工業大学環境デザイン学科）。（優秀賞は以上の3点。）佳作：園部晃平氏（広島工業大学環境デザイン学科）。佳作：石川誠氏（広島工業大学環境デザイン学科）他12名。佳作：河島悟志氏（近畿大学工学部）。佳作：松岡育子氏（福山大学大学院）。佳作：石川誠氏（広島工業大学環境デザイン学科）他12名。（佳作は以上の5点。）特別賞：奥野洋平氏（近畿大学工学部）。以上、入選は

9点であった。優秀賞の3点について講評すると次の通りである。秦敏彦氏の「Time Capsule」は、公共の場とは公にされている場を舞台とし、時間を共に過ごすことで人間としての厚みをつけていくことに、真の目的を持つのではとの考え方により、平和公園と広島市の街をつなぐ元安橋を、歴史を繋ぐ公共の場として我々の生活に潤いを与える場にするものである。手法としてタイムカプセルを利用し、私的な経験を公的なものとする時間軸を繋ぐ公共空間を、極めて建築的に構想している点に特徴がある。石川誠氏・他12名の「illuminated city」は、人と水の距離をなくし、意識的にもそれらを繋げる試みを水辺に提案している。具体的には、満潮時には水辺の樹木がライトアップされ夜の公的な水辺を演出する、つまり水の干満に連動する仕組みにより水辺に明暗が演出される。干満の胎動が、ライトアップと連動する情景が特徴といえる。園部晃平氏の「Where do you go?」は、不特定多数の人間が利用でき、人の精神を引きつける魅力的な場こそ真の公共の場との認識のもとに、河川敷を新たな個人意識の中の都市のリビングスペースとして機能させ、新しい個人と個人の人間関係を成立させる多彩な仕掛けによるフリースペースの形成に特徴がある。■座談会は、三島久範氏（広島工業大学環境学部非常勤講師）をコーディネーターに、岩田幸二氏（広島市都市計画局都市デザイン室室長）、山本哲生氏（広島市企画総務局企画調整課地域活性化調整担当課長）、中島伸夫氏（株式会社LAT環境設計事務所常務取締役）、そして私というコメンテーター4人の、全体で5人にて行った。三島氏の、問いかけ・誘導の巧みさと、意見を言い易い率直な雰囲気づくりの上手さにより、各コメンテーターの率直な意見・感想が述べられ、私も雰囲気に甘えて意見・感想を述べさせて頂いた。また、フロアーより、村上徹氏（村上徹建築設計事務所・広島工業大学環境学部教授）、西宮善幸氏（西宮善幸建築設計事務所）からも多くの具体的な感想を述べられた。総じてそれらを列挙すると、イ）今後の可能性を有すること。ロ）ライフスタイルの側面より

の力強さのあること。ハ) オープンカフェなどの河岸緑地の上手い活用の方法。ニ) ハードが先行しない仕組みの大切さ。(このハ)とニ)の側面より、「ある春の日 みんなで…」(田岡博之氏・広島工業大学環境デザイン学科)が特に話題となった。)ホ)モノづくりの発想のものが多く、モノづくりからモノづかいへの変換が大切。ヘ)単なる河川敷を超える方向の大切さ。ト)エコの発想の作品が少ない。この発想のものが欲しい。以上の7つが列挙できる。なお、五三会側の配慮により、参加者全員に飲み物やおつまみが用意され、それらを戴きながら、座談会は絶えず懇親的雰囲気の中で行われた。■公開審査会および座談会を通して私の感じたことを以下に列挙させて頂く。

●①、課題は「公・共の場」か、「公共の場」か。……これについては、どうも明確に捉えられていない様に思った。前者の場合は、「公の場」と、「共の場」と、それらの狭間に位置すると考えられる場、それらの関係性を考慮した具体の提案が求められることになろうし、後者の場合は、所謂「公共の場」についての提案が求められることになる。課題テーマとその主旨の文章からこれらについて読み込み、どう迫るかについての検討がなされるとよかったと思う。●②、展開するシーンとしての水(海辺・川辺)をどう理解するか。そしてそれをベースに広島市の街なかのいかにその場所を設定し、いかに適切な要素を付加するか。……これについても、どうも明確に捉えられていない様に思った。シーンとしての水(海辺・川辺)については、広島市のそれらをどう考えるのか。例えば、内海の干満が河川にも直接に影響すること、河川の氾濫への対応、これらに対処するために護岸は一般に堅くせざるをえない、一方、我々は水に親しみたい。そうすると護岸機能はかなえて、親水性も獲得することを、同時にまたは別々に、またはその両方で行うことについて具体的に検討するとよいと感じた。また特に川辺については、断面にしても雰囲気にしても全てが同じではない、むしろ色々の「相」があり、それを生かしたルーズな断面などの色々の断面、それ



を生かしたデザインが期待される。●③、「公・共の場」と、「護岸機能と親水性の獲得」とは、ある意味で「際」をどう考えるかではないか。……この2つの際についての明確で、かつ新しい解釈による具体の提案が実は密かに期待された。●④、これらについて創る過程を仕組んでいるか。……これらの何れの場合も、簡単に短期に出来るものではない。それへのプロセスが大切であり、創る過程を仕組むことも、更に密かに期待された。●⑤、審査の方法について。……今回の様な審査員一人のほかに、複数にて、それも異なる分野の審査員により審査を行う方式も考えられる。今後テーマ内容により検討されると良からう。●⑥、応募作品の市民に向けた展示について。……ここでのテーマから考えて応募作品を今回の公開審査会での展示に限らずに、より広く市民に向けて展示会を開催することを今後考えると良いと思う。以上の6点を感じた次第である。■表彰式は、五三会会長山野正晴氏より、各入選者に表彰状と賞金を授与し、当日のスケジュールを全て無事に終了した。■応募者全員と五三会の方々には只々感謝申し上げる次第である。

平安の都『厳島神社』を訪ねて

広島再発見II ～厳島の旅～

前回の“広島再発見”-『尾道の旅』に引き続き今回も新しい発見を求めて取材旅行に行くことになりました。今回私達が選んだ場所は、日本三景であり、世界文化遺産に指定されたそうです、あの“宮島 厳島神社”です。

宮島といえば、御存知の通り我が母校『広島工大』からは、目と鼻の先ぐらいの距離にある瀬戸内海の島ですが、みなさん学生時代はともかく、これまで何度くらい足を運んだことがあるでしょうか。広島出身者いや、そうでなくても、一度くらいはほとんどの人が訪れているのではないのでしょうか。

今回私達が取材地として『宮島』を選んだ理由は、これまで何度か足を運んだことのある『宮島』をもっと知ることができたらと思ったからです。



一、のんびりフェリーで宮島上陸！

私達の今回の“旅”は、自動車での出発です。広島市内より西広島バイパス（通称：西バイ）を経由してのルートとなりましたが、当日競艇は行われておらず、スイスイと、自動車を走らせることができました。

フェリー桟橋の駐車場に自動車を停め(有料)、フェリーで宮島に上陸です。日頃、『船』というものに乗る機会の少ない私達にとっては、この10分程度の短い時間が意外に新鮮で、これから訪れる宮島への期待をふくらませます。そして短い船旅のあとはいよいよ宮島上陸(!?)です。



広島再発見Ⅱ ～厳島の旅～

二、宮島散策 いざ出発！

桟橋から出ると、私たちを迎えてくれたのは、“しか”達でした。動物愛護をモットーとする(?)編集員Mは、早速「鹿せんべい」なるものを手にし、鹿たちの人気者となりました。

それから私達は、宮島のシンボル「大鳥居」に向いました。さすがに、“大”鳥居というだけあり、間近で見る鳥居は、いつ見ても豪快で、美しいものです。そこではきっちりと、写真に収まり次の目的地へと進みました。



大鳥居をバックにハイチーズ

三、平安絵巻 今もここに



厳島神社参拝入口にて

大鳥居から歩いて間もなく、目の前に現われたのは、そう「厳島神社」です。海中を敷地にするという、奇想天外な社殿は、一説には、現世に竜宮城を再現したものといわれ、静かな瀬戸内海に浮かぶように建つ寝殿造りの社殿と、高さ約16mの大鳥居は、平安朝をしのばせる優雅なたたずまいを見せています。

早速私達は中に入ることにしました。厳島神社といえば、去年の夏台風の被害をうけ、たびたびテレビにも映し出されていました。現在の状態はというと、かなり修復作業はすすみ、遠目にはほとんど完全な形となっています。遠目にはほとんど完全な形となっ

ています。しかし、奥のほうに入っていくと、小規模ながら修復に励む職人の姿を目にしました。それにしても6世紀末に推古天皇が創建されたと伝えられるこの建物が、21世紀を迎えようとする現在までいろんな人の力に支えられてここに残っていることは、大変すばらしいことであり後世に伝えていくべき文化遺産であるということを感じました。

ちょうど訪れた時に神社内では結婚式が挙げられており、和服姿の新郎・新婦が周りの景色にハマっていたのが大変印象的でした。

広島再発見Ⅱ ～厳島の旅～

四、観光名物/? “猿まわし”

それから私たちは厳島神社を出て休む間もなく人の波に流されていくと、その先には……。『猿まわし』の最中だったのです。動物愛護をモットーとする編集員Mと、生き物を愛してやまないTは、猿ばなれした猿の曲芸に見入り、まわってきた籠の中についつい“500円”もの大金を入れ、後で後悔していたことは言うまでもありません。



宝物満載!? 宝物館にて…

五、緑にたたずむ、仏教建築～大聖院～



大聖院にて



緑と調和!? 大聖院

『猿まわし』で一息ついた私達は厳島神社から出て、間もなくの場所にある『宝物館』が目にとまり、一行は暗黙のうちに中に入っていました。展示品は鎧・兜や絵画、陶器、いわゆる宝物とよばれるものが展示され、特別サービスとして編集員Mのフィアンセ（現在：Wife）Oっちゃんの英語解説付で、古来の宝物を拝観したのです。

その後も我々は歩き続け、霊峰弥山の麓にある真言宗御室派の大本山「大聖院」へとたどりつきました。原始林の深い緑に覆われた弥山には、弘法大師が秘法を修めたときとされる遺跡が沢山ありますが、それを総括していたのが大聖院だということです。昔は厳島神社の別当寺として神社の祭を司どっており、皇室とのつながりも深く、平家をはじめ、足利歴代将軍や豊臣秀吉もこの寺を厚く信仰していたようです。また、ここから弥山山頂には、弥山登山道“大聖院コース”が通じているので、時間と体力に自信のある方、そうでない方も一度試してみてもいいかもしれません。

尚、私達が訪れたのは、晩秋であったため、紅葉の中に荘厳なたたずまいを見せる大聖院は、これもまたいいものでした。

広島再発見II ～厳島の旅～

六、歴史と自然に彩られ…

私たちが次に目指したのは“紅葉のある風景”でした。宮島の紅葉といえば、そう「紅葉谷公園」です。しかし私達の思いはむなしく、枯れ葉と共に散ってしまいました。そうです、すでに見頃は過ぎてしまったのでした。それでも私たちと同じ志を持つ人達が、葉っぱの落ちた木の下で食事をする姿は、なかなか趣き深いものでした。

ということで私達は早々に、ここを引き上げ、最後の目的地、千疊閣へと向いました。



緑の中の美男美女？



五重の塔を見上げると



見よ、千疊閣の大きな柱を

七、秀吉の夢、ここにあり

「千疊閣」のことをみなさんは御存知でしょうか。ここで少し説明をさせてもらおうと、16世紀末、豊臣秀吉が千部経をあげて戦没武士の供養をする目的で建設を命じたのがこの建物で、875畳もの広さがあるため、千疊閣とよばれています。建設途中で秀吉が亡くなったために、天井が張られていないなど完成をみないまま現在に至っています。

尚その隣に並ぶように五重ノ塔が建っています。これは高さ27.6m 15世紀初めの建築で檜皮葺きの屋根に朱塗りの柱が背後の山の緑に映え、優美な姿を見せています。

私たちは、ここでもまた拝観料を払い千疊閣に入りました。これといった展示物はありませんが、使用部材の大きさと、風通しの良さ（吹きさらしの小高い丘にあるため）には一同脱帽でした。しかしここからはちょうど厳島神社の屋並みが一望でき、それなりの価値はありました。

広島再発見Ⅱ ～厳島の旅～

八、歩いたあとは、やっぱり……

いよいよ今回の旅も終局へ。朝早くから歩き続けた私達も人の子。やはりお昼も過ぎると、一同口数が減り何か口に入れたくなります。そこで旅といえばやはり“おいしい”ものがつきものです。そんな“おいしい”ものを求めて一行は、観光客であふれる商店街へ向いました。するとどこからともなくいい匂いが……。そうです、広島名産“かき”を焼く匂いです。まるで匂いにひかれるかのように、気付くとみんな焼きかきを注文しているのです。かきの絶妙の舌ざわりに一同にっこり、明るい会話(?)も復活です。それから“ちくわ”や、“もみじまんじゅう”など、宮島名物を手にフェリー乗り場へと向かったのです。

今回の旅は棧橋の駐車場に着いたのが午前10時、駐車場に帰ってきたのが午後2時。計4時間の行程でした。私達が今回見て廻ったものの他に宮島にはまだ沢山の名所があります。『弥山の展望台』や『三鬼堂』約1200年を経た今日でも燃え続けている『不消霊火堂』等、とうてい1日で全て見て廻ることはできません。今日同行した編集員は皆口をそろえ、「こんなに見る所があるとは思わなかった」と言っていました。みんなあまりに“宮島”は身近すぎてその良さに気付いていないのかもしれませんが。

みなさん一度改めて『世界文化遺産・日本三景の〈安芸の宮島〉』に足を運んでみては、いかがでしょう。きっと新しい発見があるはずです。

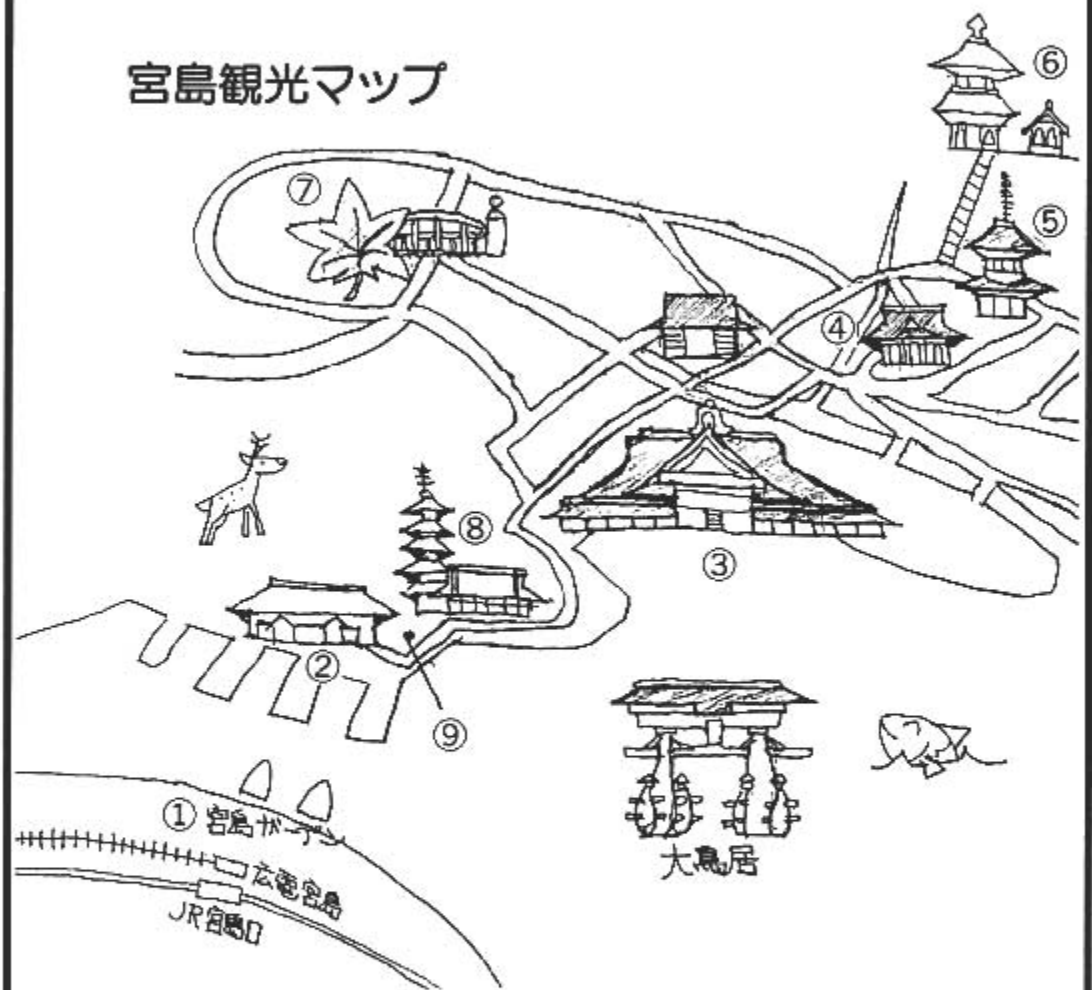


千畳閣から厳島神社を見下ろす



広島再発見Ⅱ ～厳島の旅～

宮島観光マップ



(今回の旅の記録)

広島市内 → ①宮島ガーデン → ②宮島港栈橋
 AM10:00 AM10:30

⑤多宝塔 ← ④宝物館 ← ③厳島神社
 AM11:35 AM11:20 AM10:45

⑥大聖院 → ⑦紅葉谷公園 → ⑧五重塔、千畳閣
 AM11:55 PM12:20 PM1:00

①宮島ガーデン(食事) ← ⑨商店街(買物)

1999年度 卒業者就職先等一覽表

氏名	就職先	氏名	就職先
土木工学科 (建築工学コース)		井口敬三	崇樹
秋田佳岳		池端秀樹	誠り
伊藤智恵子		石川丸か	介秀人
井伊由里		石井関本	和琢
伊藤美由		一市伊藤	か雅史
今岩見賢司		井野上	か学
江崎待史		井上	か樹
尾田智和		井上	佳和
香川真実		井上	仲知
梶山真恒		井上	千春
梶山相一		井上	尚照
河内村あ		井上	智久
木元み		井上	幸茂
坂元み		井上	雅美
佐藤勝球		井上	高千
澤田晃尚		井上	俊輔
嶋渡顕太		井上	直衣
杉田志淳		井上	一征
杉本裕樹		井上	純子
杉本宏純		井上	登志
高橋平彰		井上	江亮
高橋洋一		井上	介幸
立木介喜		井上	和倫
田原泰明		井上	祐由
田原博隆		井上	正法
井後雅之		井上	志子
寺本和之		井上	香由
出家紀子		井上	順健
中西治久		井上	沙織
西本久剛		井上	賢二
野村裕士		井上	孝和
長谷川祐久		井上	修平
浜野平		井上	友則
平田道夫		井上	裕平
平松妙子		井上	将久
平藤真高		井上	之智
細川真宏		井上	繁樹
増岡誠子		井上	昌俊
松田悦友		井上	浩太郎
松田久一		井上	史
松丸義一		井上	
丸山義雄		井上	
三上義章		井上	
森久昌衣		井上	
保安本		井上	
山本芳		井上	
環境デザイン学科		井上	
青嶋公季		井上	
秋永真		井上	
浅岡倉		井上	
浅東		井上	
荒川		井上	
有安		井上	
藤安		井上	

広島工業大学 建築・環境系教職員名簿

〔土木工学科 建築工学コース〕

氏名	住 所	郵便番号	電話番号
中尾好昭			教授
佐藤立美			〃
高松隆夫			〃
浅野照雄			助教授
岩井哲			〃
福田由美子			講師
大林真			技術職

〔環境学部 環境デザイン学科〕

門田博知			教授
田頭良子			〃
水田一征			〃
篠原道正			〃
森保洋之			〃
光易恒			〃
東元定雄			〃
喜久川政吉			〃
天野實至			〃
神田隆至			〃
菅雄三			〃
菅原辰幸			〃
小林芳正			〃
新田昌弘			〃
高村本上			〃
横田徹壽			〃
竹内章司			〃
野添久視			〃
中山勝矢			〃
佐藤洋			助教授
西川加彌			〃
廣川協一			〃
清田誠良			〃
手越義昭			〃
黒岩俊介			〃
三好孝治			講師
三村泰臣			〃
熊谷啓子			〃
平田圭			〃

五三會

活動報告

幹事長 三島久範 (S60年卒)

「五三會」ではこれまで卒業生の交流を図るため「新入会員歓迎会」や「ゴルフコンペ」などの交流事業を行ってきましたが、最近では時代の冷たい風を押されるかのように参加者が少なくなってきました。

そこで、99年度の幹事会では、卒業生が楽しく集まることができる新規事業を企画するため、活動企画委員会を設けることにしました。

そして、今年度は、その最初の試みとして五三會設計競技のテーマを「公・共空間を考える ～海辺・水辺～」とし、審査会の後、そのコンペ作品を題材に学生、大学の先生、卒業生、ゲストコメンテーターが広島市の都市デザインについて語り合う会を開催しました。

当初、人の集まりが心配されたこの企画も、結果的には各方面からのご支援をいただくことができ、予定の時間を越えても終わらないほどの交流会になりました。そして、会の終わりには、このような活動はもっと社会に開き充実させていく方がよいのではないかとというご意見も多くいただくことができました。

幹事会では、今後とも、在校生や卒業生などが一緒になって社会につながる創造活動を展開していけるような場をつくり、五三會活動を有意義なものにしていきたいと考えておりますので、卒業生の皆様にはこれまで以上にご支援、ご協力いただけますようよろしくお願い申し上げます。

平成11年度幹事会スタッフ一同

平成11年度役員

(会 長)	山野 正晴	(昭和54年卒)
(副 会 長)	森田 洋生	(昭和47年卒)
	落合 木堂	(昭和56年卒)
(会 計)	田中 義登	(昭和63年卒)
	木下 和夫	(昭和63年卒)
(会計監査)	金川 豊	(昭和47年卒)
	神垣 聡志	(昭和61年卒)
(書 記)	奥野 功貴	(平成4年卒)
	小瀧 宏治	(平成6年卒)
	朽木 紀子	(平成9年卒)
(幹 事 長)	三島 久範	(昭和60年卒)
(副幹事長)	平田 欽也	(昭和60年卒)
(顧 問)	三上 明夫	(昭和44年卒)
	中島 伸夫	(昭和49年卒)

五三會事務局

〒731-5193

広島市佐伯区三宅2丁目1-1

広島工業大学環境学部環境デザイン学科

菅原研究室内

TEL082-921-3121



五三会収支決算報告

平成11年度収支決算報告

(平成12年3月1日現在)

◆収入の部			(単位 円)
繰越金			5,347,993
新会員会費			829,650
広告料			859,580
利息収入			771
合	計		7,037,994

◆支出の部			(単位 円)
会議費			52,446
バイト費			50,000
印刷費			59,325
金融機関手数料			380
雑費			16,676
会報誌印刷費			531,300
会報誌郵送費			195,600
設計競技費			323,622
新入会員歓迎費			8,100
学生大賞記念品			6,255
予備費			61,750
繰越金			5,732,540
合	計		7,037,994

平成12年度収支予算(案)

◆収入の部			(単位 円)
繰越金			5,732,540
新会員会費			850,000
広告料			360,000
合	計		6,942,540

◆支出の部			(単位 円)
会議費			70,000
バイト費			100,000
印刷費			40,000
金融機関手数料			1,000
雑費			10,000
会報誌印刷費			550,000
会報誌郵送費			261,700
会報誌取材費			30,000
設計競技費			320,000
企画活動費			30,000
新入会員歓迎費			100,000
学生大賞記念品			30,000
予備費			100,000
繰越金			5,299,840
合	計		6,942,540

建築学科記念事業基金収支決算報告

平成11年度収支決算報告

(平成12年3月1日現在)

◆収入の部			(単位 円)
繰越金			1,638,095
利息収入			1,213
合	計		1,639,308

◆支出の部			(単位 円)
雑費			0
在学生交流費			51,884
在学生助成金			0
繰越金			1,587,424
合	計		1,639,308

平成12年度収支予算(案)

◆収入の部			(単位 円)
繰越金			1,587,424
合	計		1,587,424

◆支出の部			(単位 円)
雑費			10,000
在学生交流費			100,000
在学生助成金			150,000
繰越金			1,327,424
合	計		1,587,424

広島工業大学建築・環境系同窓会 「五三会」会則

第一章 総 則

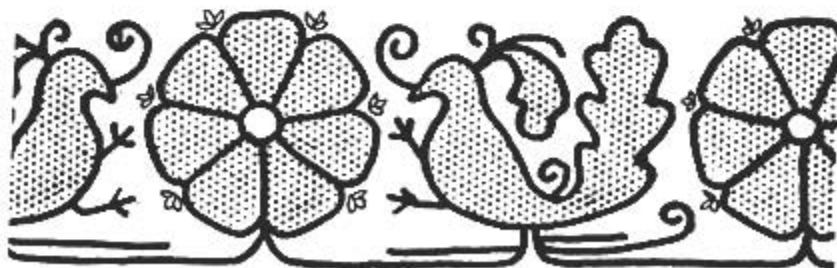
- 第 1 条 本会は広島工業大学工学部建築学科・同土木工学科建築工学コース・環境学部環境デザイン学科(以下、「建築・環境系」と称す)同窓会「五三会」と称する。
- 第 2 条 本会は、本部を広島工業大学内に置く。但し、総会で必要と認めた場合に支部を置くことを得る。
- 第 3 条 本会は会員相互の交誼を厚くし、かつ母校の建築・環境系学科の発展に貢献することを目的とする。
- 第 4 条 本会は前述の目的達成の為に下記の事業を行なう。
- (1) 集 会
 - (2) 会員相互の連絡並びに共助に関する事
 - (3) 会誌及び会員名簿の発刊
 - (4) 母校に対する精神的、物質的援助
 - (5) 会員の功績に対する顕彰
 - (6) その他本会の目的達成に必要な事

第二章 会 員

- 第 5 条 本会は下記の者を以て組織する。
- (1) 正 会 員 広島工業大学建築・環境系卒業生(大学院を含む)のうち会費を納入した者
 - (2) 準 会 員 正会員以外の広島工業大学建築・環境系卒業生
広島工業大学建築・環境系在学学生(大学院生を含む)
 - (3) 特別会員 母校建築・環境系教職員及び旧教職員
 - (4) 名誉会員 本会の発展に貢献し、名誉会員としてふさわしいと総会で認められたもの

第三章 役 員

- 第 6 条 本会は下記の役員を置く。
- | | | | |
|-----------|----------|-----------|-----|
| (1) 名誉会長 | 置くことができる | (2) 会 長 | 1 名 |
| (3) 副 会 長 | 2 名 | (4) 会 計 | 2 名 |
| (5) 会計監査 | 2 名 | (6) 幹 事 長 | 1 名 |
| (7) 幹 事 | 若干名 | (8) 書 記 | 2 名 |
- 第 7 条 本会の役員は次の方法で決める。
- (1) 名誉会長は総会をもって推す
 - (2) 会長・副会長・幹事長・会計・会計監査・書記は総会で正会員の中から選ぶ
 - (3) 幹事は総会の決議により正会員の中から委嘱する



- 第 8 条 各役員はそれぞれ求の任務を持つ。
- (1) 会 長 本会を代表し会務を総括する
 - (2) 副 会 長 会長を助け支障がある場合は代理する
 - (3) 会 計 会計事務に当たる
 - (4) 会計監査 会計を監査する
 - (5) 幹 事 長 会務を主宰する
 - (7) 書 記 書記事務に当たる
- 第 9 条 役員任期は一年とし再任をさまたげない。但し欠員は役員会にはかり補充し、これによって就任した者の前任者の残りの期間とする。

第四章 顧 問

- 第 10 条 この会に顧問は若干名をおく。
- (1) 顧問は総会の決議により適任者を委嘱する
 - (2) 顧問は会の諮問に応じる

第五章 会 議

- 第 11 条 会議を分けて定期総会、臨時総会、役員会及び事業委員会とする。
- 第 12 条 総会は最高の議決機関で毎年 1 回開く。臨時総会は役員会が必要と認めた時、会長が召集する。
- 第 13 条 総会は次のことを決める。
- (1) 会則の変更と改正
 - (2) 決算及び予算
 - (3) 事業委員会の組織
 - (4) その他緊急事項の協議
- 第 14 条 役員会は会長が認めた時召集し、次のことを決める。
- (1) 総会に附議する原案
 - (2) この会の運営に関する諸事項
 - (3) 事業委員会の組織
 - (4) その他緊急事項の協議
- 第 15 条 事業委員会は必要に応じて役員により組織し、第 4 条に掲げる事業についてその事務を処する。
- 第 16 条 会議の議決は出席者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

第六章 会 計

- 第 17 条 この会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をあてる。
正会員は終身会費として、入会時に 10,000 円を納入しなければならない。
- 第 18 条 この会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

第七章 委 任 事 項

- 第 19 条 この会則に定めのあるもののほか、必要な事項は役員会においてこれを定める。

付 則

本会則は、平成 8 年度から施行する。
旧会則で正会員であったものは、本会則における正会員に移行する。



編集後記

会誌発行にあたり、御寄稿下さった方々、また、多数のスポンサーの方々にお礼を申し上げます。

私は入社して3年、今回初めて会誌の編集責任者となりました。編集作業のたいへんさを感じながら、編集委員のメンバーと時には楽しみながら充実した内容となるようにがんばってきました。

今回の会誌は“今、五三会は何をしているのか”という事が少しでも伝わるように編集してみました。この会誌を読んで頂いて少しでも五三会の中の姿がわかって頂いて、気軽に参加して頂ければと思っています。

また、会誌にのせてほしいということがあれば、ご連絡下さい。

最後に、編集作業にあたり、協力して頂いた編集委員の先輩・後輩に、この場をかりましてお礼を申し上げます。

「五三会」第27号編集委員

寺尾 慈子 (H4) 三好 征一 (H9)
高野 栄一 (H4) 山口 順子 (H10)
原尻 忠始 (H4)

(連絡先)

五三会事務局
広島市佐伯区三宅二丁目1番1号
広島工業大学環境学部環境デザイン学科
菅原研究室内
(〒731-5143) 082-921-3121 (代)

広島工業大学建築・環境系同窓会会誌 「五三会」第27号

編集責任者 三好 征一
発行責任者 山野 正晴
企画・製作 ハローデンイン
発行 平成12年3月